

※一部非公開

令和二年度入学試験問題 (前期日程)

国語

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース

教科教育専攻

中学校教育コース

教科教育専攻

国語教育専修

注意事項

- 一、解答時間は、一〇〇分である。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 四、解答は縦書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

## 非公開

一

次の文章は、保吉という少年を主人公とする芥川龍之介の小説「少年」の一章である。よく読んで、あとの問いに答えなさい。(三〇点)

非公開

(芥川龍之介、「少年」、『芥川龍之介全集』第十一卷、一九九六年、岩波書店、五九～六二ページ、一部改変)

注 1 御竹倉——現在の東京都墨田区横網町にあった幕府の敷地。芥川はここに南接する旧本所区小泉町（現在の墨田区両国三丁目）で育った。

2 本所七不思議——旧本所区内の七伝説のこと。「おいてき堀」「狸の莫迦囃子」「送り提灯」「落葉なき椎」「津軽の太鼓」「片葉の葎」「消えずの行灯」。

3 Delphi——古代ギリシャの遺跡 Delphoi の名。

4 蒙古——モンゴルのこと。

5 服膺——心にとどめて忘れないこと。

問一 傍線部 a～e の読み方を書きなさい。

a 常套手段      b 巫女      c 看破      d 蜃気楼      e 寧(ろ)

問二 次の作品の中から、芥川龍之介の作品ではないものを二つ選び、記号で答え、それぞれの作者名を漢字で書きなさい。

ア	蜘蛛の糸	イ	トロッコ	ウ	羅生門	エ	李陵	オ	杜子春
カ	蜜柑	キ	手巾	ク	河童	ケ	地獄変	コ	或阿呆の一生
サ	右大臣実朝	シ	鼻	ス	薺の中	セ	芋粥	ソ	歯車

問三 傍線部 A「彼女もこの言葉の意味をもっとほんとうに知っていたとすれば、きっと昔ほど執拗に何にでも『考えて御覧なさい』を繰り返す愚だけは免れたであろう」とはどういうことか。わかりやすく説明しなさい。

問四 傍線部 B、傍線部 C では、「……」が繰り返されている。それぞれの「……」の効果について解説しなさい。

問五 傍線部D「三十年来考えてみても、何一つ碌碌にわからないのは寧ろ一生の幸福かも知れない」について、わかりやすく解説しなさい。

問六 この文章に適切な題名を付けなさい。なぜその題名にしたのか、理由もあわせて書きなさい。

非公開

二

次の文章は、千葉俊二著『物語のモラル―谷崎潤一郎・寺田寅彦など』の一部分である。よく読んで、あとの問いに答えなさい。(三〇点)

非公開

(千葉俊二、『物語のモラル―谷崎潤一郎・寺田寅彦など』、二〇二二年、青蛙房、九九―一〇二ページ、抜粋・一部改変)

注 1「猫」——小説「吾輩は猫である」のこと。

2「四」の冒頭——「吾輩は猫である」の「四」の冒頭部分。

3 如是観によりて如是法を信じ——あるがままの姿に真実があるとする考えとその考えのもとに行うことを信じ、ということ。  
4 ルソー——フランスの哲学者、ジャン・ジャック・ルソー（一七二二—一七七八）。

問一 波線部 a～e のことばを漢字で書きなさい。

a ヒロ(い)      b ケンイ      c オウカン      d コ(もつて)      e ショウガイ

問二 傍線部①「その無名性によってこの不平等な人間社会に組み込まれることから免れている」とはどういうことか、「元来吾輩の考によると……」の引用部分を参考にして説明しなさい。

問三 傍線部②「この世界をある見方、ある法則で割り切らないことには、この現実世界はまったくのつべらぼうとなってしまう」とはどういうことか。後段の「水島寒月」の事例を使って説明しなさい。

問四 傍線部③「寺田寅彦」の作品を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 茶碗の話      イ 人生論ノート      ウ 文芸的な、余りに文芸的な      エ 現代日本の開化      オ 陰翳礼讃

問五 小説「吾輩は猫である」の作者名を漢字で書きなさい。

問六 次の資料は、小説家の村上春樹がエルサレム賞を受賞した際に「壁と卵」と題して行った受賞スピーチの一部である。これを読んで、5ページの二重傍線部 A「本来何もない大地に任意に杭を打ち、垣をめぐらすところに人間社会の自他の境界も現出したのであろう」と、9ページの二重傍線部 B「システムが我々を作ったのではありません。我々がシステムを作ったのです」に表現された筆者の共通した思いを二四〇字以上三〇〇字以内で述べなさい。



非公開

## 非公開

(村上春樹、「壁と卵」(エルサレム賞受賞スピーチ)、文藝春秋、二〇〇九年四月号、一五九〜一六三ページ、抜粋、文中の太字や行空きは原文のまま)

## 非公開

三

次の古文は、近世琉球の文人である平敷屋朝敏へしきやあさひびんが著した物語『貧家記』の冒頭部分、公私ともに零落した語り手(主人公)が家族とともに首里から故郷である勝連に下っていく場面である。よく読んで、あとの問いに答えなさい。(二五点)

(仲原裕、『翻刻と訳注 平敷屋朝敏作品集』、一九九四年、私家版、一六四～一七一ページ、抜粋・一部改変)

注 1 景気——良い景色。

2 道触ちふりの神——道中の安全を守る神。

3 閼伽棚あかだな——仏に供える水を載せる棚。

問一 傍線部①「田舎へこそ」は「田舎へ行こう」と解釈できる。「こそ」のあとに省略されている文節を答えなさい。

問二 傍線部②・③を現代語訳しなさい。

問三 波線部の助動詞A「られ」・B「けむ」・C「なり」の文法的意味として適切なものを、ア～カの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 過去の伝聞      イ 現在の推量      ウ 断定      エ 推定      オ 自発      カ 受身

問四 太線部 a～d「に」の説明として誤っているものを、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 太線部 a「に」は、ナリ活用形容動詞の連用形の活用語尾である。

イ 太線部 b「に」は、順接の接続助詞である。

ウ 太線部 c「に」は、断定の助動詞の連用形である。

エ 太線部 d「に」は、場所を示す格助詞である。

問五 傍線部④を文節に分けると、幾つになるか。漢数字で答えなさい。

問六 傍線部⑤の和歌には、語り手(主人公)のどのような心情が表れているか。和歌の解釈を踏まえながら、一〇〇字程度で説明しなさい。

問七 本文は、平安時代初期に日本で成立した著名な二つの古典文学作品の影響を強く受けて書かれている。二作品のうちのいずれかを、漢字で答えなさい。

## 非公開

### 四

次の文章は、鈴木健一『日本漢詩への招待』の一節である。よく読んで、あとの問いに答えなさい。なお、設問の都合上、漢詩において一部の訓点を省いているほか、解説文の語句についても一部省略している。(一五点)

(鈴木健一、『日本漢詩への招待』、二〇一三年、東京堂出版、七三～七五ページ、抜粋・一部改変)

問一 空欄 A に入る適切な漢字を、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 喜      イ 悲      ウ 想      エ 哀

問二 ①句「君富春秋臣漸老」を現代語訳しなさい。

問三 ②句「不知此意何安慰」を全て平仮名で書き下しなさい。

問四 空欄 B に入る適切な漢字を、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 又      イ 復      ウ 亦      エ 全

問五 空欄 C に入る適切な漢字(一字)を答えなさい。

問六 空欄 D に入るのは、引用されている漢詩の作者名である。この人物は、平安時代初期に漢学の才を生かして政治家としても活躍し、

大臣位にまで上りつめたものの政敵により左遷の憂き目にあい、筑紫国(現在の福岡県)で没したことで知られる。その名前を漢字で答えなさい。

解答例

一

問一	a じょうとうしゅだん	b みこ	c かんぱ	d しんきろう	e むし(ろ) 【1点×5】
問二	記号 エ 作者名 中島敦	記号 サ	作者名 太宰治 【1点×4】		
問三	<p>つうやは、教育的な意図によって、答えがわかっている全知の立場に立って、保吉に何度も執拗に「考えて御覧なさい」を繰り返した。問われた子どもの側は、一生懸命考え、想像を巡らせる。しかし、答えが明かされたたん、自らが考え、想像した内容や過程そのものが無意味だったかのような衝撃を受け、想像が一気に消滅してしまう寂しさを感じる。子どもが感じる、秘密が秘密でなくなる寂しさを知っていたならば、つうやは、答えのある問いかけを安易に子どもに繰り返すという愚かなことはしなかったであろう。【6点】</p>				
問四	<p>傍線部B 二すじの線からイメージが喚起され、想像が広がるさまを表している。 傍線部C 広がっていた想像が蜃気楼のように消滅させられた寂しさの余韻を表す。【セットで5点】</p>				
問五	<p>秘密の答えをあつげなく明かされてしまうことは、自らの考えや想像の翼がへしおられたような何とも言えぬ寂しさをもたらす。秘密が秘密でなくなる寂しさを思うとき、「何一つ碌にわからない」方が幸福である。【5点】</p>				
問六	<p>題名（道の上の秘密） 理由 「道の上の秘密」とは身近に存在する秘密である。本作品は、大人によって秘密が簡単に解き明かされ、秘密でなくなってしまう寂しさを描いており、その出来事を象徴する「道の上の秘密」という題名が適切と考えた。【5点】</p>				

問一	a 拾(い)【1点】	b 権威【1点】	c 往還【1点】	d 籠(もつて)【1点】	e 生涯【1点】
問二	<p>「吾輩」は名前を持たず、どこの家の誰の猫であるかという特定から逃れているため、誰の「所有物」でもなく、人間たちの勝ち負けや生死を争うようないさかいかにも巻き込まれず、出入り禁止もされず自由に暮らせているということ。 【6点】</p>				
問三	<p>水島寒月は「丸い硝子の球」を作るために、幾何学で定義された円や直線を使おうとするが、現実世界にはそうした完璧な円や直線は存在しない。したがって、それを使って何度工夫しても「丸い硝子の球」は完成しないことになり、現実には存在する円や直線とされるものを使わないことにはいつまで経っても研究が終わらないということ。 【7点】</p>				
問四	<p>* *出題ミスのため正答なし</p>				
問五	<p>夏目漱石(漢字以外不可)【1点】</p>				
問六	<p>人間は自らの住む世界の事物や思索を「割り切る」ためにことばを發明して使ってきた。ときには、この世界がある見方、ある法則で「割り切る」努力もしたが、現実はその容易に許さなかった。人間は同じように大地を区切り所有して自他の境界をも作ってきた。その結果、所有の不平等を生じさせるばかりか、生死をめぐる争いまで引き起こすことになった。それは、システムという壁と表現することもできる。この壁はときには、人の心を分断する。しかし、この壁は人間が作ったものであるから、その壁に立ち向かうには、現実世界に生きるお互いの魂のかけがえのなさを信じ、その温かみを寄せ合わせるものが求められている、という思い。 【10点】</p>				



問一	<p>行かめ 【2点】</p> <p>(「行くべけれ」も可)</p>
問二	<p>② 「あれは何ですか」と尋ねると 【3点】</p> <p>③ 膝をさえ伸ばすような場所がなくやりきれないけれども 【3点】</p>
問三	<p>A オ 【2点】</p> <p>B ア 【2点】</p> <p>C ウ 【2点】</p>
問四	<p>ウ 【2点】</p>
問五	<p>二 【2点】</p>
問六	<p>和歌は「今日からは膝を伸ばして寝ることができる。これ以上、何を望もうか」と解釈でき、失意のうちに田舎に流れてきた語り手の、つつましい暮らしの中でも小さな幸せを見出して前向きに生きていこうという心情が表れている。</p> <p>【5点】</p>
問七	<p>『伊勢物語』または『土佐日記』 【2点】</p>

問一	イ 【2点】
問二	天皇は長い将来があり、臣下である私はだんだんと老いている。 【3点】
問三	しらずこのいづくにか あんるせん (いづくにか、あんいせんも可) 【3点】
問四	ア 【2点】
問五	頸 【2点】
問六	菅原道真 【3点】